

# 広域連合長挨拶



広域連合長  
**仁坂吉伸** (和歌山県知事)

関西から新時代をつくる。この志のもと、平成22年12月に関西広域連合は発足しました。この10年間、ドクターヘリの一体的な運航体制の構築、相次ぐ自然災害でのカウンターパート方式による迅速な被災地支援、広域交通インフラの目標設定など積極的に取り組んできました。また、「ワールドマスタースゲームズ2021関西」、「2025年大阪・関西万博」という世界中から関心が集まる絶好の機会を捉え、官民の力を結集し、関西全体の発展に向けた取り組みを進めています。

一方で、分権型社会の実現に向けては、当初の目論見であった国の出先機関の移管など実現されていない所も多いのですが、政府機関の地方移転を全国で唯一実現した上、さらに広域連合ができたことによって、一層の分権化を進めるためのより所としての役割を果たして行けるものと思います。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京一極集中の脆さが改めて認識されました。ポストコロナの時代にふさわしい新たな社会づくりを進めなければなりません。

関西広域連合では、構成府県市が一丸となり取り組んできたことにより、実現できた成果が数多くあります。しかし、関西広域連合は今に留まる必要はありません。むしろ進化していくことが望まれます。

関西広域連合が次の10年間に目指す姿として「広域行政のシンボルとして躍進する『関西広域連合』」「新次元の分権型社会を実現」「デジタル化の推進と国土の双眼構造の実現」「世界のネットワーク拠点“関西”」を掲げ、関西の“力”を総合化する結節点となり、広域行政の責任主体としてのリーダーシップを発揮していきます。

「関西は一つ、関西は一つ一つ」。これからもそれぞれの地域の多様性を活かしながら、関係府県市一体となった取り組みによって活力ある関西を創造します。皆様のご支援ご協力をお願いします。

令和3年4月

## 設立の趣旨等

# 関西から新時代をつくる！

## 地域のチカラ、関西広域連合

### 分権型社会の実現へ！

中央集権体制と東京一極集中を打破し、地域の自己決定、自己責任を貫ける分権型社会を実現するため、広域課題に地域が主体的に対応できる現実的な仕組みづくりを、関西が全国に先駆けて立ち上げ、地方分権の突破口を開きます。

### 関西全体の広域行政を担う責任主体！

南海トラフ巨大地震等の大規模広域災害発生に備えた広域防災体制の整備やドクターヘリによる広域的な救急医療体制の確保をはじめ、将来的には関西の競争力を高めるための交通・物流基盤の一体的な運営管理などを目指し、関西が一丸となって広域行政を展開します。

### 国の出先機関の事務の受け皿づくり！

各団体の個性や資源を効果的に活用するとともに、出先機関を中心とした国の事務、権限のうち、広域自治体で担うべき事務の移譲を受けて、国と地方の二重行政を解消。関西全体としてスリムかつ効率的な体制への転換を目指します。